

＜一般ギャフ兼用型落とし込みダブルギャフの取り扱い説明書＞

—落とし込みダブルギャフ—中軸—青物取り込みシステム：WG 6 2 1 5 B—

製造、販売：服部商会

「ギャフ」の名称で特許が取得できた日本で唯一の製品
高場からの単独ギャフ掛けを実現

大物用落とし込みダブルギャフとそのシステム及びギャフ掛け方法（取り込み方法＝やり方）は特許、特許全八項目：特許第4988949号及び特許第4988970号、「落とし込みダブルギャフ」は登録商標：登録第5540603号

● 本ギャフは、落とし込みダブルギャフをネジ付きギャフ本体と落としギャフ用アダプターとからなるセパレート式にしたもので、このアダプターを取り付ければ、落としギャフとして使用でき、又これを外せば、通常のネジ式一般ギャフとして、タモの柄に取り付け使用可（ネジ一致）。アダプターのネジはギャフ本体に対して最後はグイッと締める事ができますから、使用中勝手にネジが緩む事はありません（反対方向に力を込めてグイッと回さなければ緩みません）。事前に地形が分からない、沖磯での使用に適。上げられた磯が足元からスッパリ切れていれば、落としギャフモードで、又高さが低く前下がりの地形であれば柄付きギャフモードで。

● 本中軸—青物取り込みシステム用フックは数百キロのマグロ、カジキ、鮫等を捕獲する為に作られたもので、ステンレスフックとしては世界最強最大クラス。サイズの別は別途販売の青物取り込みシステム用と略同じ（青物用8φ⇔本品6.4φ→細軸希望の方はお早目に）。

—落とし込みダブルギャフ—中軸—青物取り込みシステム仕様—

型式：WG 6 2 1 5 B

寸法（設計値）：

ギャフ本体；フック軸径6.4mm、全長17cm、全幅9.3cm、フトコロ7cm、フック幅8.6cm、自重200g

落としギャフ用アダプター；全長6.2cm、自重70g

ギャフセット（ギャフ本体+アダプター）；全長21.5cm、自重270g

ロープ；径6mm×長さ13m（ナイロン編みロープ）

システム総重量：647g

適用範囲：2kg～20kg（最適範囲3～15kg、耐強度はフック一本で60kg）

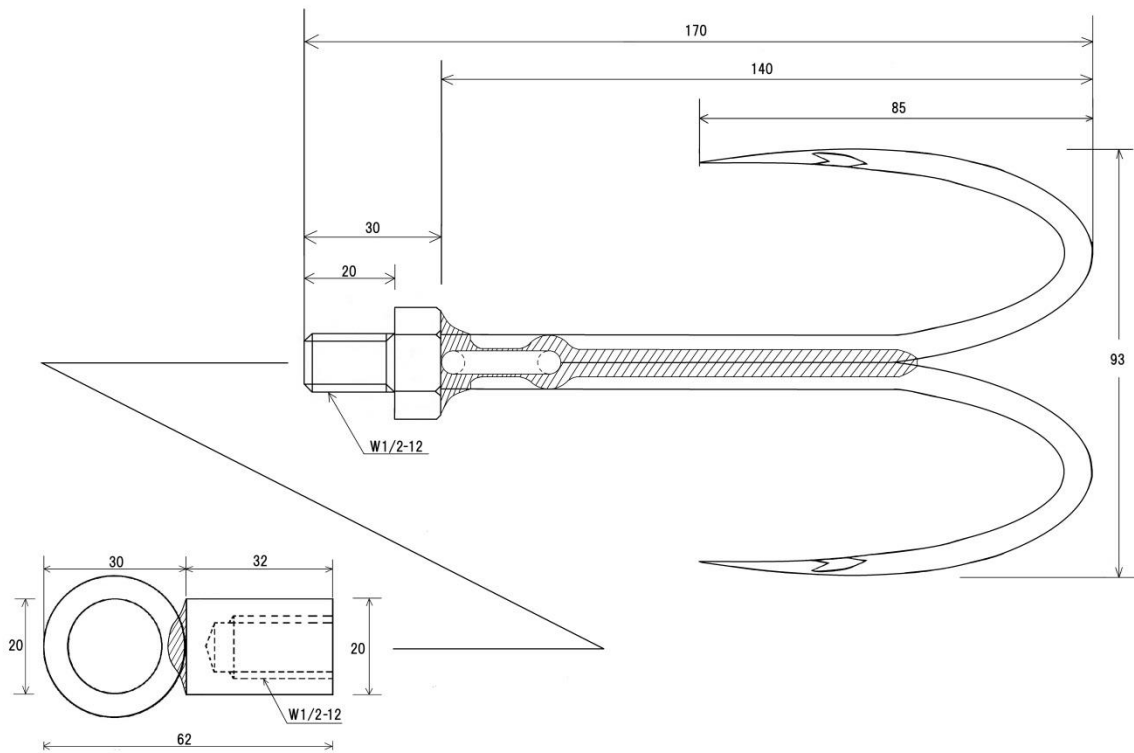
適用高距：3m（ルアーは2m）～1.2m

材質：ステンレス（フック部—高強度鋼・・焼き入り）

製法：ハンドメイド

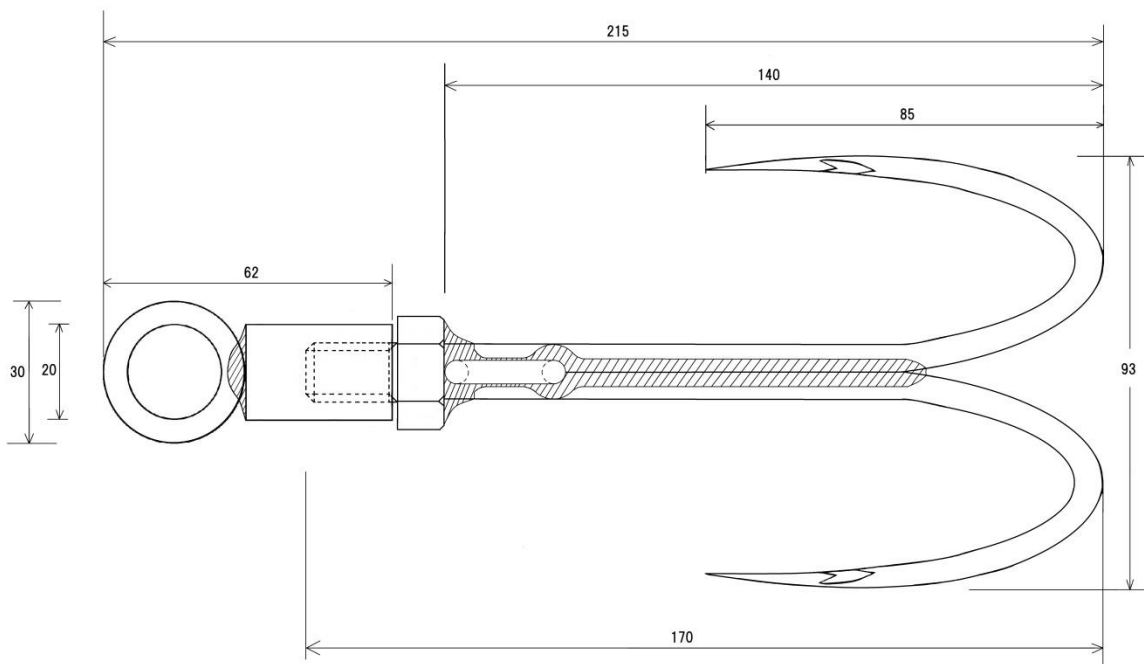
対象魚：青物、ヨコワ、底物、回遊魚等

図 1



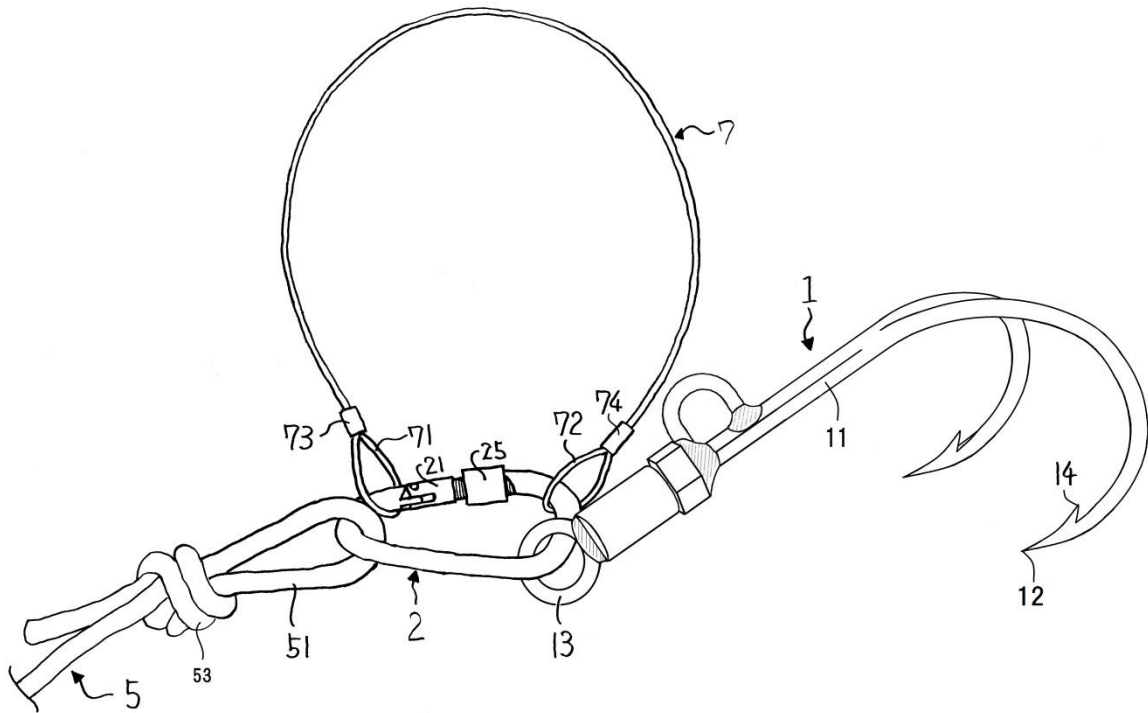
<図 1 はギャフ本体と落としギャフ用アダプターとの組み付けの状況を示す>

図 2



<図 2 はギャフ本体と落としギャフ用アダプターとを組み付けたギャフセットを示す>

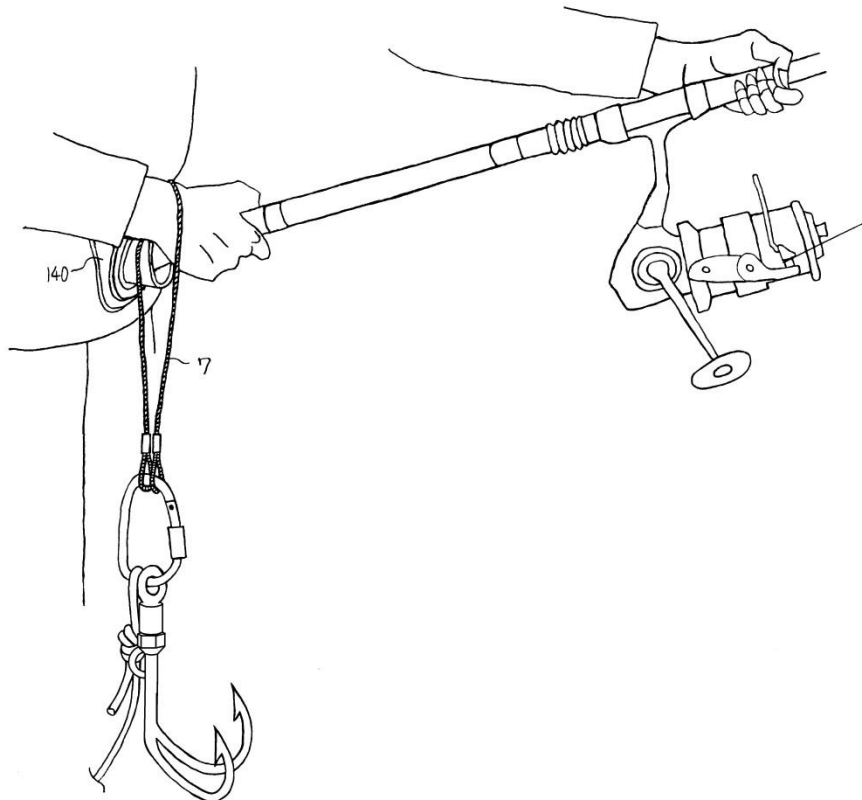
図 3



<図 3 は中軸一青物取り込みシステム（本品）の全体図を示す>

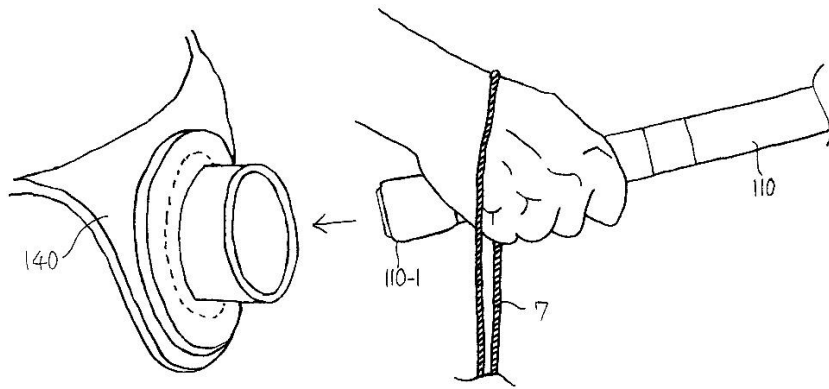
「単独ギャフ掛けのやり方説明」

図 4



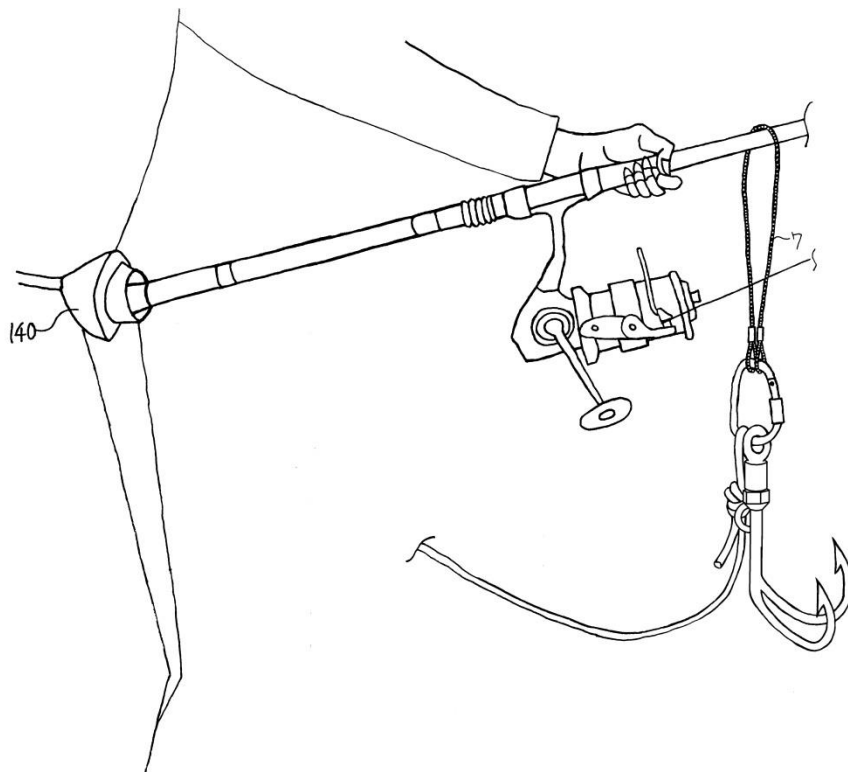
<図 4 は、竿尻通し方式を基本とする本システムのループ体（7）を手首に掛け、取り付けを開始する状況を示す>

図 5



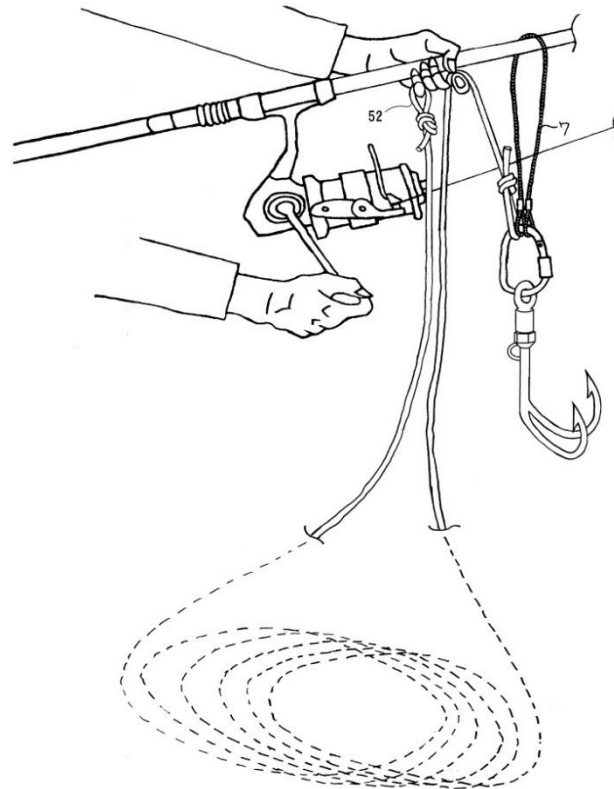
＜図5は、ループ体（7）を手首に掛けたまま竿尻（110-1）をマンタベルト（140）から離し、手首を起こす事により、ループ体（7）が元竿（110）上を通った状況を示す＞この後、再び竿尻をマンタベルト（140）に戻す。

図 6



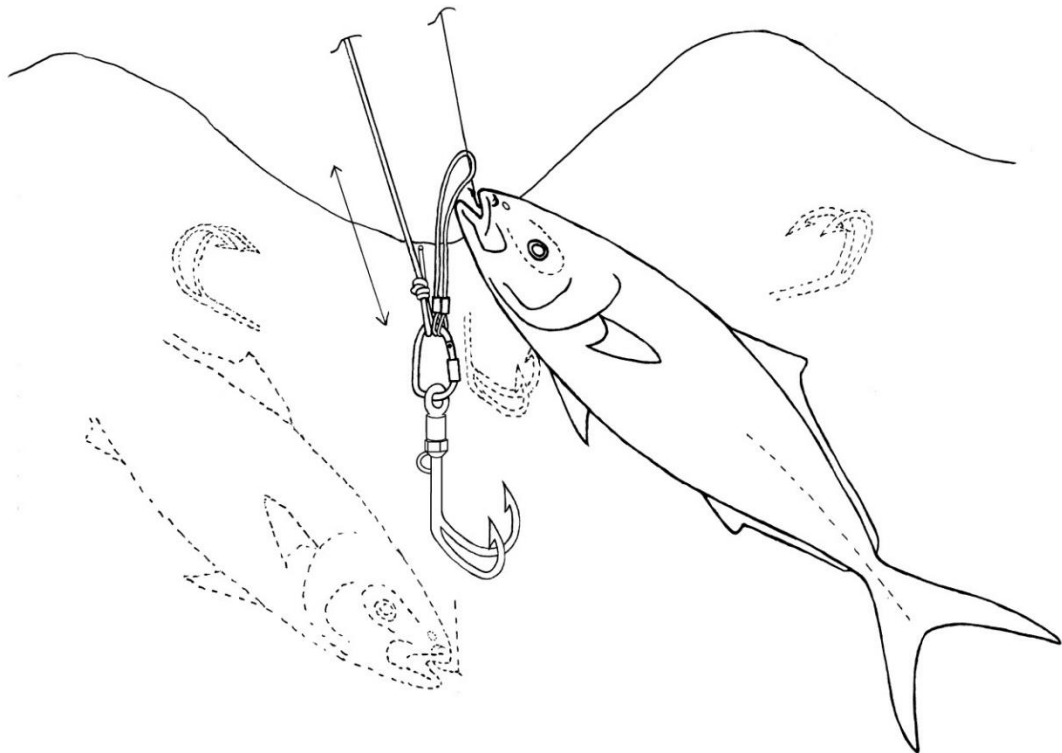
＜図6は、元竿上を通ったループ体（7）を前進させ、リールを越えてその前に出した状況を示す＞

図 7



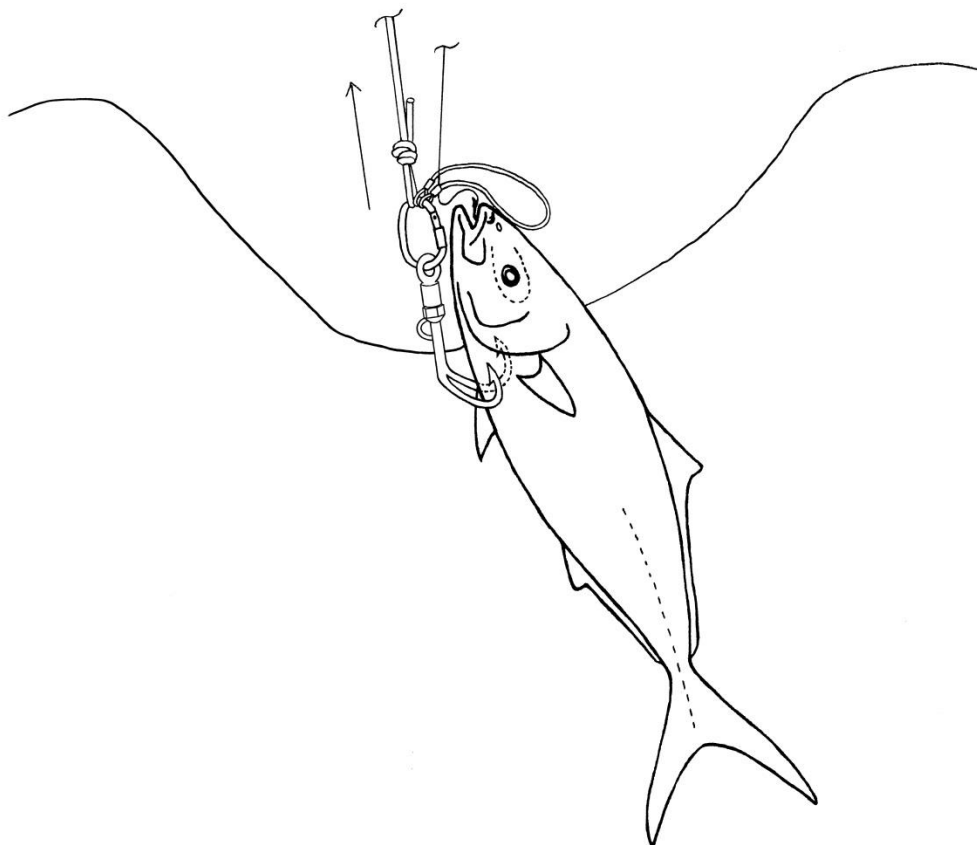
＜図7は、落とし込みの準備が完了した状態を示す＞ギャフを引き付け、ロープを人差し指で押さえ、他端のループ（52）を小指に掛ける。押さえたロープを離し、リールを巻きながら、竿先を下げ、ギャフを竿伝いに落とす（面倒な場合は、事前に他端ループ52を足元のクーラー等に固定しておき、右手の平の中でロープを滑らす）。

図 8



＜図8は、フッキングのメカニズムを示す＞落とし込んだギャフセットは魚の口元に確実に到達する。ロープを掴んだ手を上下させてやると、程無くズシリと重みが掛かる。

図 9



＜図9は、重みを感じ、強くロープを引っ張る事により、ギャフが食い込んだ状態を示す＞食い込みがカエシ迄到達すれば、もはやギャフは外れない。

1) 序文

本落とし込みダブルギャフは高場からの単独取り込みを高い確実性で可能にします。本ギャフは、ガイドの役目を果たすループ体7を竿尻から通してリールの前に出す（本青物用の基本的やり方）か、又はループ体7の他端72を事前に安全環付カラビナ2から外しておいて、取り込み時にリールの前側で、巻き体として道糸ごと竿に巻いて、カラビナ2に掛けてやり（別途大物用、巨魚用の基本的やり方）、その後竿伝い、道糸伝いにギャフを落とす使い方をします。この点に於いて、道糸を手で掴んで道糸にガイドを掛ける従来方式とは基本的に異なります。本ギャフシステムの最大の利点は、単独での取り込みにも、竿を立てた状態を維持したまま（＝ラインテンションの喪失無く）ギャフのセッティングを完了出来る事であり、且つ、リールのドラッグが機能しない状態を一時的にも引き起こす事無く（＝高いサージテンションの発生無く）、ギャフのフッキングに到達出来る事です。ギャフを落とす時には竿先を下げますが、此の時はリールを巻きながら下げる訳ですから、ラインテンションの喪失は起こりません。従来方式（ガイド道糸取り付け型ギャフ）で、ラインを手で掴めば、5m有る竿の弾力が無くなるわけですから、魚が手前に突っ込んだ場合等に、ラインテンションの喪失は避けられません。又、この状態では既に竿は横に置かれている訳ですから、リールのドラッグは機能しません。この時、魚が向こうに引っ張れば、高いサージテンションの発生は避けられません。これに対して、本ギャフシステムでは、単独であっても、竿の弾力とリールのドラッグ機能のこの二つを同時に維持したまま（＝魚のコントロールを維持したまま）、ギャフのフッキングに到達できます。

此れにより、本大物用落とし込みダブルギャフとそのシステム、及びギャフ掛け方法（取り込み方法）は特許が認められました（特許全八項目、特許第4988949号及び特許第4988970号、及び実用新案一項目、登録第3176635号）。其の詳細は特許庁ホームページの特許電子図書館で確認できます（「落とし込みダブルギャフ」は登録商標、登録第5540603号）。

2) 基本説明

本品は、青物、シイラ、ヨコワ等を主体として、2kgから20kgの魚を対象とします。2kg程度の比較的小型の魚の場合は、ループ体7内を魚が通過する可能性が有る為、注意が必要です。20kgという数値はロープ5（6φ—13m）の太さから来るもので、ギャフ自体1の強度限界を示すものではありません。一人で上げるには6mmロープでは20kgが限界です、という意味です。ロープ径は最も使用頻度が高いと思われる3～4kgから7～8kgの魚に合わせたものです。ギャフ自体の耐強度はフッカー一本で60kgですが、強度は熱による組織変化により、個体差があり、本品はこの数値に関して、如何なる保証も致しません（参考値として留意し、壊れない範囲で使ってください）。本品は約70cmから1m強の魚に適します。ガイド7端からフック12位置までの寸法が魚のサイズにマッチングしている事が高効率なフッキングを実現します（硬い頭部分を回避して、胴体部分に針先が来る位置設定、本品は1m前後—80cm～

1. 2 m一の魚に最適)。1 m以上の魚（カッポレーGT、磯マグロ、マグロ等）をメインターゲットとする場合は別途用意の大物取り込みシステム（特許）又は巨魚取り込みシステム（特許）をご利用下さい。S、M、L、LL表記で表した場合に、本ギャフシステム（中軸—青物用）はM、大物取り込みシステムはL、巨魚取り込みシステムはLLという事になります。

従来法では今まで、大物の高場からの取り込みには、フライングギャフ、イカリ型ギャフ（タコ足型—投げ込み方式）、ガイド道糸取り付け型ギャフ、落としダモ、大型長柄タモ等が使われてきました。然しながら、これ等の方法で、5 mを超える高場から5 kgを超える大物を、単独で（自分一人で誰の手助けも無く）、確実性高く取り込む事は、一竿が短くて比較的簡単に道糸が掴めるルアーの場合を除いて一、事実上不可能でありました（置き竿ファイトは別）。二人の人間がいればこれらの技術のうちその状況に適したものを使用すれば比較的簡単な事なのですが。仮にたまたま其れが出来たとしても、其れはただ単に幸運だっただけで、まぐれにすぎません。本発明の落とし込みダブルギャフは大物の高場からの単独取り込みを可能にするものです。本ギャフシステムでは、十分に離れた高く安全な場所から、魚にギャフを送りつけ、フッキングさせ、約2 kgから約20 kg（巨魚取り込みシステムだと約40 kg）までの魚を足元まで上げることが、完全単独で、高い成功率でできます。然も高い携行性を有します。従来法の大型長柄タモでは、アシスト無く一人で6 mのタモ柄を片手で操作して、中型以上の青物を、上下する水面でタモ入れする事は至難の業です。これに対して、本ギャフシステムは、一人である事、距離がある事（更には魚が大きい事ですら）が障害にならず、安定した姿勢を維持したまま、容易且つ確実にフッキングに到達できます（通常10秒から20秒程、長くても一分以内）。

3) 事前準備「ロープ抜き」→図3参照

出荷時点でロープ5の両端に作ったループの片方51をカラビナ2に掛けてあります。使用時にはこのループ51をカラビナ2から外し、結び53を解き、下記に示すロープ抜きを必ず実行して下さい（必須）。此れはロープ内ストレスを解消し、使用時のロープトラブルを回避するために絶対必要です。輪にしたロープを解いた時点で、キンク（よじれ=内在ストレス）が発生しているのに其れを放置したまま釣りを開始する事は、タモを組み立てないまま釣りを開始することに等しく、致命的です。「ロープ抜き」は、使用前に必ずやる必要があります。ギャフを落とす時には片手は竿を支えている訳ですから、残りの片手しか使えません。ギャフを落とす途中でロープが纏れてしまったら、如何にもなくなります。纏れはキンク（内在ストレス）が引き起こします。ロープギャフを使いこなす事はロープを使いこなす事と同義です。ロープには撚りロープと編みロープとがあり、本品は編みロープです。編みロープには撚りは入っておらず、本来、キンクは発生しません。然しながら、ロープは持ち運びする時には通常、輪にして持ち運びます。此の輪にする時に、巻く毎に捻ってしまっているのです（捻るつもりがなくともそうなります）。其のまま、両端を持って引き延ばせば、ロープ内に多数の捻じれが存在する事になります。此れがキンクを引き起こす要因となります。此れを解消する「ロープ抜き」は下記の様になります。ロープ端のループ51をカラビナ2から外し、結び53を解いた上で、ロープ他端（52）を、手の甲を上に向けた状態で、左手で持ち（手刀側がロープ他端52）、その横で親指同志がくっつく形で、右手でロープを軽く持ちます。左手でロープを掴んだまま、ロープを持った右手を水平方向右に大きくスライドさせます。次に左手を右手横に持ってきて、再び左手でロープを掴み、右手を右に一杯までスライドさせ、此れを端（一端51側）までやります。今度は反対側の端（一端51側）から同じ事をやります。此れを2～3回やります。此れでキンク（よじれ）は完全に取れます。この作業を、「ロープを扱（しご）く」と言います。両端に再びループ（51、52）を作り、その片方51（一端側）をカラビナ2に掛け、安全環25をロックします。最後に他端側（52）から、ロープ5を輪に巻き、他端側（52）が下に位置し、ギャフ1側が上に位置する様に（又はジグザグに→シイラ用ビデオ参照）、ループ体7（ステンレスワイヤー）が手首に掬い取りやすい状態で、足元近くの邪魔にならない場所に、注意を持って配置します。此れで準備は完了です。この作業は慣れれば1～2分で出来る筈です。要するにロープギャフの事前準備とはバッグから出して輪を解いておけばよいという事ではありません。又、此の時、下側に位置している他端側（ギャフとは反対側）のループ52が横に出ている状態にしておくことが次の動作に都合がいいです（半とぐる状態の蛇の尻尾が横に出ている状態）・・・又はジグザグに→シイラ用ビデオ参照。此のロープ抜きをしない人はロープギャフを使いこなす事は不可能と断言します。

4) 使用方法（特許）

①魚を寄せた後、竿尻110-1をマンタベルト140に位置させ、左手で竿110を支え、右手でリールハンドルを掴んだ基本姿勢から、腰を少し下げ、右手をハンドルから離し、足元近くに事前配置した本ロープギャフのループ体（7）を右手首に掬い、取る。その状態で竿尻110-1近くを掴み（図4の状態）、竿尻をマンタベルト（140）から外す。

②平面視（上から見た状態）腕方向と竿軸方向とを一致させながら、手を前に出し気味に手首を起こすと、ループ体（7）が竿尻（110-1）を通過する（図5の状態）。

③その状態で、竿尻（110-1）を元のマンタベルト（140）に戻す。

④此れで、ループ体（7）が元竿（110）上を通った。そのままループ体（7）を前進させ、リールを越えてその前に出す（図6の状態）。此れで竿を立てた状態を維持したまま、単独でギャフセット（＝ギャフシステム、以下同）の取り付けは完了した。リールの通過は、ハンドルを手前側に位置させ、先にハンドルを通過させた上で、次に本体を通過させればスムーズに行く。スピニングであれば大型であっても何も問題はない（本兼用型—中軸—青物取り込みシステムでは、此のループ方式が基本である）。大型両軸リール（ペン9/0、ダイワシーライン900クラス）の場合でも、通過は可能だが、心配な場合は、ループ体7の他端72を事前に安全環付カラビナ2から外しておいて、取り込み時にリールの前で、巻き体（ラッピングワイヤー）として道糸ごと元竿110上に巻いてやるやり方（巻き付け方式）も可能である（次項に詳述）。ループ体7をリールの前に出したら、カラビナ2から出たロープ5を、竿110を持った左手の人差し指に掛

け、其れによりギャフ1を安定させた上で、右手で足元にあるロープの他端（52、ギャフの反対側・・・前記半とぐる状態の蛇の尻尾状）のループ（52）を掴み、其のループを、竿110を持つ左手小指に受け渡す（図7参照）。これで、落とし込みの準備は整った。落とし込みは、フリーフォールに近い形で一気に落とした方が、カゴ周辺の通過が上手くいく（＝カゴ釣りの場合・・・ルアーの場合は何の障害も無い）。前記左手人差し指で抑えたロープを解放すると同時に、右手でリールハンドルを回しながら、竿先を下げ、ギャフを竿伝い、ライン伝いに一気に落とす。リールを巻きながら竿先を下げるから、ラインテンションの喪失は起こらないが、必要に応じて、魚の突っ込みを利用して竿先を下げるとか、竿の張りを緩める事により、突っ込みを誘発させ、竿先を下げるとかの工夫を加えても良い。ループ体（7）が竿先を通過したら（通常2～3秒で通過）、再び竿を立てる。カゴとその周辺の通過は、通常一発で通過するが、若しその周辺で止まったとしても、何も問題はない。その場合は、ロープを引いて持ち上げ、下してやれば通過する。最悪、絡んだ様な状態になったとしても、慌てる必要は無い。ギャフ1が重く、ガイド7やロープ5が軽い為、揺り動かしてやれば、本来の姿勢（ガイド7、ロープ5が上、ギャフ1が下）を必ず回復する。このステップが面倒な場合は、右手の中でロープを滑らす（即ち図7を省略）。最省略方式はロープ他端52を事前に足元のクローラー等に固定しておき、手の平の中でロープ5を滑らすやり方です。

⑤落とし込むと、ギャフセットは魚の口元に到達するので、ロープ（5）を右手で持って、肘を支点に、鯛のテンヤ釣りをやる要領で、手先を上下させてやると（図8の状態）、程無くズシリと重みが掛かる（魚を見て操作する必要は無い）。

⑥これはフッキングした証拠だから、そしたら、カー杯ロープを引っ張り上げてやると、ガシリとギャフが食い込む（図9の状態）。これで、カエシ14が効いているのでギャフが外れる事はないから、魚が大きい場合は、右手のロープを緩めて、その手でリールのドラッグを緩め、竿を置いて、両手で引上げを開始する。魚が小さい場合は、右手で引いたロープを、竿を持つ左手の親指又は人差し指に挟みながら其のまま（＝ロープを緩めることなく）、両手で交互に引き上げる。

5) ループ体（7）を巻き体として道糸ごと竿に巻く方法（特許）

前述した様に、大型両軸リール（ペン9/0、ダイワシーライン900クラス）の場合でも、ループ体（7）の通過は可能ですが、不安な場合、若しくはそれ以上のリールの場合、ループ体（7、ステンレスワイヤー）の両端に設けてあるループ71、72の片方72（他端）をカラビナ2から外しておいて、取り込み時に、リールの前側で巻き体（ラッピングワイヤー）として道糸ごと元竿110に巻いてカラビナ2に掛けてやることもできます。ロープに関する準備は、3）事前準備で説明したのと同じです。前記ループ71、72の片方72を外すことにより、カラビナ2にはギャフ1のリング13を真ん中にして、手前側（ギャフの背側）にロープのループ51、先側（ギャフの前側）に線状となったステンレスワイヤー7（巻き体、ラッピングワイヤー）のループ71（一端）が位置しています（ループ71は安全環25の上側、図3に於ける左側）。此処までが事前準備です。魚が掛かって、ファイトを経て、竿下まで魚を寄せました。此処から、ギャフ掛けの全ムーブの開始です。

①基本姿勢を維持したまま、腰を少し下げ、右手をリールハンドルから離し、右手の指を、ギャフセットの安全環付きカラビナ2に掛け、取る（此の時の右手人差し指の位置は、図3に於ける51と71との間）。

②次に、竿110を持っている左手の人差し指を開き、右手指から、左手人差し指にカラビナ2を受け渡す。この時、カラビナ2は狭い方のコーナー（図3に於ける左側）を左手人差し指で握る。各部材（51、13）は重みがあるので、カラビナ2の広い側のコーナー（図3に於ける右側）に寄っており（71は安全環25の左側）、同コーナーは下を向き、カラビナ2の安全環25は前側に位置している。

③左手人差し指も合わせて竿110を握る。即ち、左手の他の四本の指は直接竿110を握り、左手人差し指はカラビナ2を間に挟んで竿110を握る事になる。

④次に、右手で、反対側72がフリーになってぶら下がっている巻き体＝ラッピングワイヤー7（元ループ体であったワイヤー）を掴み、竿110及び道糸を越えて、反対側に投げ下ろす。

⑤すると、ワイヤー7は重みがあり、適度に柔らかいから、フリーの側72が竿110の向こう側に垂れ下がる。

⑥右手を竿110の下側から伸ばし、フリーになっている他端側ループ72を掴む。

⑦摘んだループ72をカラビナ2の開口部に押し当てやると、ワイヤー7は適度の硬さがあるので、開口部がバネに抗して、開き、パチリと言う音と共に、ループ72がカラビナ2内部に嵌まり込む。

⑧右手でカラビナ2の安全環25を回し、開口部をロックする。これで竿を立てた状態を維持したまま、単独でギャフセットの竿110への取り付けは完了した。これで、ワイヤー7はリール前で前項におけるループ体（7）と同じ状態になっている。

⑨次に竿110を傾けて落す訳であるが、両軸リールは竿110の上側に付いており、竿110上にはラインガイドが、立っている訳で、此れが落す際の障害になるので、まず、竿110及びリールを180度回転させ、リールを下側に向ける（スピニングリールの場合はこのプロセスは不要）。

⑩石鯛竿又はクエ竿は、ラバーグリップが長めに巻かれているので、その先まで、ラッピングワイヤー7をスライドさせる（ルアーの場合はこのプロセスは不要）。

⑪次に、ギャフセットを落とし込む為に、リールを巻きながら、竿先を倒さなければならない。リールを下側に向けたことにより、ハンドルは左側に来ているので、左手でハンドルを握り、巻き方向に力を加え、巻き取りながら竿先をさげる。巻き方向が通常と逆になるので注意が必要である（スピニングは関係無い）。ラッピングワイヤー7が竿先を通過したら、再び竿を立てる。以降は、4）使用方法の⑤以降と同じである。

一尚、此の巻き付け方式は大物取り込みシステム及び巨魚取り込み方式では基本となる一。此の巻き付け方式は文章で表すと上記の通りとなり、解り辛いので、別途YouTubeにUPしてある、大物用のビデオを見て頂くと一目瞭然です（同じなので）。

6) 使用上の注意

- A) ギャフ掛けのムーブに入る時は、ドラッグを少し緩めてバランスを崩す事が無い様にしてから、入って下さい。
- B) ギャフセットを手首に通す時はループ体7に背側から通して二本のフック12の針先が出来るだけ指先側(=魚側)を向くようにしてください(あらゆる方向に、動くので、此の事を過度に気にする必要はありません、反対方向になったとしても魚は間違いなく掛かります)。
- C) ロープの他端側(52、ギャフとは反対側)をボディ(体)の何処かに固定する事は、危険ですから、絶対にしてはいけません(魚に引っ張られてバランスを崩す危険があります)。左手小指にループを掛けるやり方の他に、他端側のループ52にカラビナを掛け、クーラーや餌バケツ等の取っ手又はハーケンに掛けたシュリング(補助ロープの輪)にこのカラビナを掛ける事もできますし、石鯛竿の場合ですと、尻手環にこのカラビナを掛ける事もできます(この場合ギャフセット取り付け後に掛ける)。
- D) 中通し浮きにケミホタルを立てる事はできません。ケミホタルを使用する場合、ケミの長さより少し長めのチューブ(無ければストローの硬いのも可)の周りにケミをナイロンテープで巻き付けて使用する事も一つの方法です。この場合、上から、浮き止め、シモリ玉(ビーズ)、ケミを巻き付けたチューブ、シモリ玉(ビーズ)、浮きとなります。ケミとチューブの間に隙間ができないように、ケミの両側でナイロンテープが台形状になるように巻いてください。浮きの後ろに隠れて一時的に光が見えなくなる事はありますが、魚の引き込みと一時的な光の喪失との区別は、明確でありますので、実釣に於いて、何も支障はありません。
- E) 浮きカゴ一体型の上下に設けるシモリ玉(ビーズ)はなるべく小さい物を使用してください。此れが大きいと、ガイドがスムーズに仕掛けを通過する上で、障害になりえます(小さければ問題ありません)。浮きカゴ一体型の道糸通し部には、インターロックスナップ付きローリングサルカンが使われている事が多いかと思いますが、インターロックスナップは形状的にフック状部が存在すること及び長手部(ゲート)が小型のシモリ玉向きでない事から、此のインターロックスナップを取り外して、通常のスナップ付きタル(片スナップ付きタル型サルカン)に取り換えて、此のスナップ付きタルの長手部(ゲート)を浮きカゴのリングに直接取り付け(又は前記インターロックスナップを取り外して残ったローリングサルカンに取り付け)て、反対側のスナップ付きタルのサルカンの目(丸い方)に道糸を通すのがいいです。カゴ自体は障害になりません。
- F) 夜釣りで竿先にケミホタルを取り付ける場合も、ケミの両サイドに隙間が出来ない様に(隙間にループ体7・ワイヤー・が嵌まり込む事が無い様に)、ナイロンテープがケミの両サイドで台形状になるように、竿先に巻きつけてください。
- G) 浮きカゴ一体型のカゴ横に鈎掛け用フックが付いている場合は、此れにループ体7が引っ掛かる心配はまずありませんが、必要以上の長さをカットして、フックを短めにしてください。又、仕掛け周辺をガイド(ループ体)7がスムーズに通過出来る事を事前に確認して下さい。スムーズにいかない場合は、何か「角」が存在している筈ですから、その「角」を解消して下さい。尚、ルアーでは障害になる要素が何も無い為、パーフェクトにOK。

7) 保守管理

本品はステンレスですが、使用后放置すれば、含有カーボンの影響により、多少の錆がきます。Stainlessとは錆びないという意味ではなく錆びにくいという意味です。ステンレスにはその組成により、多くの鋼種があり、本品フック部は高強度鋼です。本鋼種は、一般的な鋼種(SUS304、等)に比較して、強度面に於いて勝りますが、防錆力に於いて劣ります。釣行後は速やかに水洗いをし、乾いた布で水分を拭き取って、防錆油(刀剣用がベスト)を塗布した後、其れを乾いた別の布で軽めに拭き取り、保管する事をお勧めします。その時点で既に錆がきていた場合はサンドペーパー等で錆を落とした上で同作業を行ってください。釣行前には必ず針先のチェックを行い、鈍っていれば、必ずヤスリ又は砥石等で針先を研いで、油を針先に塗布して、持参してください。針先が鈍って魚体表面を滑ってしまっただけではフッキングしない訳です。本ギャフでは針先の鋭さは手の甲に当ててチクリと痛みが走る事が必要です。磯でなく堤防であっても、コンクリート表面には固い小石が混ぜられている事が多く、凹凸が激しいです。魚の重みが掛かった状態で、フッキングしていない残りのフックが表面を擦りながら、上がってくることになる訳ですから、ギャフは過酷な仕事をさせられます。ユーザーの、針先の鋭さに対する感性が無かったら、本ギャフはその能力をフルに発揮できません。

針先が軸に対して多少なりとも内側を向いている事、カエシがある事、此の二点は、ロープギャフ(落としギャフ)が、動きが激しい青物等に対して、その目的を達成する上で、不可欠な要素です。ロープを引いたときの力の方向と針先の方が略一致する必要があり、此の為、ロープギャフ用のフックは通常釣針と略同じ形状でなければなりません。又、ギャフ掛け直後、ギャフは、大暴れする魚体と共に、どういう向きにも動く訳ですから、カエシが無いと直ぐに外れてしまいます。これらの理由から、柄で外側から打掛けて(此の為、一般ギャフの針先は外側を向いている)、掛けた後は、柄を引き付ける事によって、針先を常に上側に向かせ、其れによって、魚が外れる事を防ぐ様に作られている通常のカエシ無しギャフは、青物用落としギャフとしては機能しえません。

本ギャフは、フックの針先は内側に向いています。掛けるのは、システム力で掛けます。フックの針先が内側に向いているため、魚引き上げ時には、フックの軸とロープとは一直線となる為、リング13が起き(堤防/磯表面から離れ)、フッキングしていない残りのフックの針先は表面を擦るのではなく、多少なりとも表面から浮く(離れる)形となります。此れにより、フッキングしていない残りのフックは、表面の小規模な凹凸は、擦るのではなく、かわすことができます。此れは針先の鈍りを抑えるのに役立つでしょう。本ギャフは、掛けるのはシステム力で掛け、引上げ時の障害物の回避はギャフの構造の工夫で行います。以上の工夫をしている訳ですから、高い感性を持って針先の鋭さに常に注意を払って

ください。本ギャフを使いこなす事（＝ロープを使いこなす事）は必ずや貴方の釣果向上に役立つでしょう。

8) システム仕様

取り込みシステム	ロープ (φ—m)	高距 (m)	ギャフ耐 荷重 k g	取り込み限界 (概略、 k g)		最適範囲 (k g) 一 人	要件
				一人の場合	二人の場合		
シーバス青物用	5—1 3	1 2	3 0	1 6	—	2—1 0	無し
中軸—青物用	6—1 3	1 2	6 0	2 0	3 2	3—1 5	無し
兼用型中軸—青物用	6—1 3	1 2	6 0	2 0	3 2	3—1 5	無し
青物用	6—1 5	1 4	7 0	2 0	3 2	3—1 5	無し
大物用	1 0—1 5	1 4	7 0	2 8	5 0	8—2 8	無し
巨魚用	9—3 0	1 4	7 0	4 0	7 0	1 0—4 0	足場周り支点

本品は兼用型中軸—青物用で、大物用、巨魚用はロープが太くなるだけでなく、システムそのものが其々違ってきます（詳細は該当マニュアル参照）。上記数値は普通の体力（腕力）の人が高さ10mの堤防で、一人（又は二人）で垂直に上げる事を想定したもので、地形や人的要素が異なれば当然数値は異なります。取り込み限界の数値はギャフ強度（耐荷重）を示すものではなくて、ロープ径をネックとした、現実的にそのロープで上げられる数値を示します（ギャフ強度はギャフ耐荷重が示す値であり十分な余力あり）。ロープが細ければ力が出ません。ギャフの仕事は魚に掛かる事であって、それ以上の事は人間の側の問題です。ロープは状況に応じて（大きい魚には太いロープに）、組み替え使用するのが適切です。

製造販売、服部商会

〒862-0901 熊本県熊本市東区東町 4-16-9-406

TEL, FAX : 096-365-0269 E-Mail :